

芦屋短大 谷川 寿枝

1. 昨年、旧・中石器美術の回想を、新石器美術へ進展させ、ふたたび現代手法にてその項をしのんでみたものです。同じ先史時代でも、狩猟・採集の獲得経済より、農耕牧畜という生産経済への移行は、人類の文化をすっかり落着いたものにしました。土器の始まりが、この研究の本体となっています。

2. メソポタミヤ（イラン・イラク）・エジプト等のオリエンタ彩文土器より、インダス・中国（半山・仰韶）の彩陶、中央アメリカ・古代アンデス文明の土器等を主とする美術を基にして、絨毯・フロアスタンドかさ・被服・小道具等に、毛糸刺繍・ドロンワーク・フランス刺繍・木彫等でその文様の面白さを味わってみました。

3. 現在、売らんかなの手芸百般の爛熟状態よりまことにほのぼのとした快い大昔の人びとの心が読みとれたようで、楽しい研究となりました。またこの研究最中に、メソポタミヤ展が開催され、その真の姿に接しえたことと、天理参考館の見学を許され、中国の彩陶の実物を目のあたりにする喜びもえられ、タイミングのよかったことは、なによりの幸せでした。

（時間の都合上、わが国の組文化は次回へゆずります）